

町内公民館文化祭 華やかに開催!!

爽やかな秋晴れのもと、10月28日(日)に岡田地区の各町内公民館で趣向を凝らした文化祭が行われました。



館報 おただ

やあ今日は！
明るいまいさつ
楽しい仲間

塩倉



草笛の見事な二重奏

今年もたくさんの力作が並びました。また、アルプス草笛会から曾我さん夫婦をお招きし、草笛で童謡唱歌を何曲か聞かせていただきました。不思議です。1枚の小さな葉で曲ができるのですから。会場にいる皆で教わり吹いてみましたが、誰一人として音を出せる人はいませんでした。難しいものです。(取材 大沢)

山浦



バラエティ豊かな展示品

2頭のポニーが来館者をお出迎え。会場に入るとおじいちゃん、おばあちゃんの表情豊かな肖像画(油絵)の大作が並んでいました。日頃の制作活動の作品から大切にしている宝物、懐かしい品々まで多くの展示品があり、くじ引きも楽しんでいました。(取材 西村)

人・地域・つながる

見事な菊とりんご3兄弟の甘いかおりに包まれて、子どもから大人までの力作ぞろい。そば会による手打ちそばも大好評。どの作品からも、作り手の想いが伝わり、心温まる文化祭となりました。(取材 中條)



新企画!!子どもたちによる人物画の力作

神沢

東区



トンちゃん、こんには!!

子どもたちの、特にハロウィン題材の作品が目立っていました。大人たちの中では、腹話術のトンちゃん、竹細工の昆虫や蝶など、まるで本物と勘違いするほどの素晴らしい作品が展示され、親子連れで賑わいました。(取材 村越)



丹精込められた見事な菊や小中学生の作品、写真、切り絵、書や絵画などの力作が多数展示されました。手づくりの「からくり人形」から美しいオルゴールの音楽が流れ、寛いだ雰囲気の中を来場者が楽しそうに見学されていました。(取材 竹内)

岡田町



菊の花に彩られた展示会場

伊深



会場入り口を彩る「地湧金蓮花」

例年出品数が減少するなかで、地域住民の皆さんの努力により、会場は盛り上がりました。会場入り口にはたくさんの菊花や珍しい雲南省原産の地湧金蓮花、室内には巨大カボチャのほか、多数の折り紙・工芸作品が並び、美味しい豚汁の振る舞いもありました。(取材 大久保)

大輪の菊花が会場を彩り、絵画や書、陶芸、生け花、手芸作品、切手コレクション、歴史研究、写真作品など多彩なジャンルの72作品のほか、自由研究など子どもたちの作品、約80点を展示。豚汁・おにぎりのおもてなしを頂戴した後は、松本一本ねぎを購入し大満足。(取材 後藤)

松岡



多彩なジャンルの作品

岡田ぼんどうニュース 変わりつつある塩倉

少子高齢化が進み空き家も増え、だんだん淋しくなっていくのかなと思っていました。ここ数年で若い家族が九世帯も増えました。空き家も少し減りベビーカーで散歩している人、始めたばかりの三輪車で遊んでいる子どもたちの姿を見かけると、微笑ましく思います。

地元も大歓迎で、初対面でも違和感なく会話が出来る関係が育まれています。今年、整体院をオープンした人は「夏に何度か友人たちとバーベキューを行っていたら、近所の方が声をかけてくださったり、差し入れをいただいたりと

本当に良い所に引越して来たなと思います。」と言っていました。私もまよりのある良い地区だと思っていますので嬉しくなりました。近所に整体院ができて、時間が合えばすぐ施術が受けられるのはありがたいです。塩倉の中心地なので、車の無い高齢者でも歩いて通えるので便利です。

子どもから大人まですれ違う人皆が声をかけ合い、皆顔見知りという温かい地域。春には桜の他にりんご、桃等の花が一面に咲きみだれ、秋には紅葉と真っ赤に実つたりんご畑がとてもきれいです。小さな子どものお母さん

は「このよくな自然と良い人たちに囲まれて子育て、生活出来る喜びを実感しています。」と話していました。これから大変なこともあるかと思いますが助けて、もっともつと良い塩倉になると思っています。



(取材 大沢)

始まっています!! 健康福祉講座

三年目を迎えた健康福祉講座（岡田地区まちづくり委員会主催 岡田公民館共催）は、今年度も第1回が10月3日に行われました。テーマは「冬の感染症・インフルエンザと風邪」、講師は信州大学名誉教授の川上由行先生でした。

ウィルスについては、生命の起源にさかのぼる歴史であり、ミクロの下の単位

ナノという世界を語ることでもあつて、壮大なスケールのお話でした。日常に役立つ、ウィルスとの付き合い方などもたくさん盛り込まれていました。「この前おもしろかったから来た。」という受講生も見られました。続けて講義を聞くことで、生活の中で実践できる健康スキルと知識を身につけられると思えました。

第2回は11月7日、岡田保育園を会場に「こどもの健康づくりとしつけ（発達障害のサイン）」（樋口司先生）が開

かれ、約80名が参加しました。第3回の健康福祉講座は、12月4日午後7時「脳の異変に気づけますか？」（小林茂昭先生）です。



この春、体力の限界を感じ、長年勤めた会社を退職しました。

正直な話、もう数年働きたいと思っていました。子どもたちはこの頃の私の体調を見ていたせい

か、「ゆっくり休めば」と言ってくれましたが、一ヶ月過ぎた辺り、肩身の狭い思いがふつふつ湧いてきました。家族は何もい

いませんが、私自身が勝手に思い込んでいたのです。そのうち、離職票が届き、職業安定所へ行きました。

生活雑記 六十の手習い 東区 M・F

その時担当職員さんから「資格を取得してみないか」との話があり、失業保険も直ぐには

いただけないので、簡単に申し込みましたが、まず訓練場所での適性試験。学校以来久々

調が悪いので、自分の不甲斐なさが嫌になりました。しかし期間半ば過ぎた頃、授業もわかるようになり、当初の不安や不調が「うそ」のように消失し、

まず皆勤を目指し、検定も取得することが出来ました。

今回の経験で、人は年齢関係なく、たいがいのが出来るという学びました。そのためには、まず目標を決める。即結論を出さず、長い目で判断し、続けることが大切だと痛感しました。